

SSKU

2013

お元気ですか?
イリアンソス
です。



- 社会福祉法人イリアンソス
- のぞみの家
東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036(F)
nozomi@iriansos.or.jp
 - 活動センターかなえ
東久留米市南沢2-20-51
042-451-0252
042-451-0262 (F)
kanae@iriansos.or.jp
 - なかまの家
東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722(F)
nakama@iriansos.or.jp
 - 生活寮「うみ」「そら」
東久留米市下里4-2-7
042-476-3400(F 兼)
sora@iriansos.or.jp
 - 生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp
 - このみ
東久留米市幸町3-8-23
042-423-9667

理事長の散歩道

特集

仲間たちの話し合い

～自治会活動を通して～

連載 がんばれイリアンソス⑧

わかくさ学園職員 上野あつこさん

理事長の散歩道



理事長の散歩道 ③

社会福祉法人イリアンソス
理事長 磯部光孝

選択できない人生

重度と呼ばれるに障害のある人たちが、都民でありながら遠い地方で暮らしていることをご存知でしょうか？

重い障害のある方は、地域生活を家庭で支えられなくなると、入所施設である都外施設や病院に収容されることが当たり前の時代がありました。昭和50年代後半から、当初は、千葉県、神奈川県、埼玉県、群馬県など関東地方が主でした。60年代になると次第に東北地方など遠隔地に設立されてきました。平成19年の時点でも、北は青森県から西は岐阜県まで、16の県に10カ所の児童施設、43カ所の成人施設(更生施設)、合わせて53の施設が設置されていて、そこに暮らす知的障害をもつた都民の数は、3767人となっています。それ以外にも、他県の施設や他県の精神科病院に入院しているもいます。

そして、今現在も入所施設の待機待ちの方が1000人いることも事実です。

障害のある方たちにとって、都外施設は全く知らない土地、知らない場所、知らない人たちの中での暮らしです。家族が支え切れなくなると、自分の意思にかかわらず選択の余地のない人生を送らなければならぬ現実が

あり、今でも多くの方が住んでいます。決して忘れてはならない現実です。

しかし、今の日本では、入所施設をなくするという選択肢は現実的には、難しい状況にあるのも事実です。これは、国民全体に障害のある人の生活実態が理解されておらず、地域で生活できる環境が整わないからです。

しかし、都外施設のあり方に関しては、マスコミ等でも取り上げられ、東京都としてもこのままでは障害のある人の人権にもかかわる問題として、「知的障害者重度生活寮」の制度が立ち上がったとわたしは考えています。

次々と変わる暮らしの制度

東京都では、2001年に東京都福祉改革推進プランを策定(平成12年12月)し、「知的障害者重度生活寮」が始まりました。

わが法人では、「知的障害者重度生活寮」である生活寮そら(自立支援法では「ケアホーム」)を2004年4月に開設し、地域の暮らしを支える事業に取り組み始めました。

生活寮そらを開設するときに、入所施設から人の方を受け入れられました。受け入れの際、これまで関わってきた方たちで連絡がとれる範囲でしたが、当時都外施設で暮らしている方の親御さんに連絡して、「地域に戻ってきませんか？」とお誘いしました。そのうち、山形県にある都外施設で暮らしていた方、1名の方を受け入れることができました。その際、まだまだ地域の受け皿が整っていない不安から、都外施設から戻ること断念せざる

を得ない親御さんの気持ちに触れた思いでした。

その後、国は東京都の「知的障害者重度生活寮」を参考に、障害者自立支援法を施行した時「ケアホーム(共同生活介護)」の制度を立ち上げ現在に至っています。

しかし、国は平成26年度に「ケアホーム(共同生活介護)」と一緒にして、ホームの職員を減らし外部のヘルパーを活用して、障害の重い方の介護を行おうとしています。

わたしたちは、障害の重い方たちの生活を支えるということは、単に介護を行うだけではないと考えています。都外施設から地域に戻ってきたMさんの生活が落ち着くまでに5年間かかりました。昼夜逆転、食べものへの執着、人への不信感そういったもろもろの課題をもっている彼を単に介護という方法で支えていくことはできません。しっかりと彼と向き合い職員集団が情報を共有していくことで、はじめて支えてこれたと思っています。

次々変わる制度ですが、その影響は直接障害のある人の生活に影響しています。そのことをたくさんの人に知っていただき、障害のある方たちのこれまでの人生を踏まえた支援ができるよう運動していきたいと思えます。



仲間たちの話し合いと自治会活動を通して

今回の特集は「仲間たちの話し合い」

のぞみの家のチャレンジドリームズ班と活動の様子を紹介したいと思います。

仕事のことやレクの話、仲間の事まで、色々話し合われているようです。

それぞれの班で話し合いの進め方や雰囲気も違ってくるのではないのでしょうか。

今回は班のメンバーにも自治会についてインタビューをしてみました。

みなさん、どんな意見をお持ちなのでしょうか。

職員の自治会に対する取り組みや大切にしていることなども紹介します。



チャレンジドリームズ班(のぞみの家) 仕事をしているのぞみの家の2階の部屋です。

部屋の壁に貼ってある『仲間たちの話し合い』という絵です。これは以前に在籍していた仲間が描いた絵です。

「みんなが心をひらいて話し合いのひとときしあわせな時間 みんなの気持ちが力強い」という詩と一緒に自治会の様子が描かれています。



チャレンジ班では一人ひとりの意見が大切にされるような自治会を目指しています。

「金曜日は自治会やりますか？」

朝の会で自治会の司会担当の仲間がみんなに聞きます。

「何かあるつけ？」

「リサイクル(バザー)の反省かな」「レクは？」

などポツポツと意見が出ます。職員と共に予定を確認して開催日を決定します。

回数としては月に1〜2回、金曜日の午後におこないます。時間になるとホワイトボードに書いてある字を綺麗に消してみんなが円になって始まります。

内容はレクリエーションの場所決め・リサイクル久留店(バザー)の反省・行事が近い場合は担当者の決定や準備の確認をします。年に一度の旅行の場所決めもおこないます。ホワイトボードに議題を書き出して始まります。

※「仲間」の表記について
記事の中で、利用者同士のやりとりが、より伝わるよう利用者の方を「仲間」と表記しています。

仲間同士

なかなか上手く発言出来ない仲間には自然と「ゆつくりでいいよ」「あとにする？」と周りから言葉がでます。

「ちよつとわかんないなー」という仲間にはみんなで丁寧に説明しています。

筆談で参加している仲間の為に待つてあげる場面もあります。

年末には一年間のまとめの自治会をおこないます。一年の仕事内容を振り返り、反省をします。そして、仲間の一人一人の頑張ったことを言い合います。「ケーキ作りがんば



っている」「いないとゴミ回収する人がなくて大変」など、仲間の仕事について意見が出ます。

インタビュー

では、実際にチャレンジ班のメンバーにインタビューをしてみたいと思います。

木下美樹さん

自治会ってどんな雰囲気ですか？

「アットホーム」

「みんなが納得できるまではなすところ」

多田鉄太郎さん

自治会ってどんな雰囲気ですか？

「みんなで大変なことを決める場所」

色々なことを決めているんですね？

「レクとか大事な仕事をとかリサイクル店(バザー)が雨が降ったらどうしようとか、

雪が降ったらどうしようとか」

「決めることが大事な。後ろにさがらないこと」

松木裕一郎さん

自治会は楽しいですか？

「はい、楽しいです。」

「色んな時、いつもリサイクルの話とかレクの話します。仕事の発表もしました」

田畑史義さん

自治会ってどんな雰囲気ですか？

「自治会の雰囲気、どうってことありません」

田畑史義さん

「自治会の雰囲気、どうってことありません」

仲間との話は楽しいですか？

「仲間とはなしするのは苦手です。まあ、話をする時には、書いて貰わないと耳が聞こえないので相手が何か話してきても聞き取れないのが困っています。」



大切にしていること:

職員も間に入りながら一人ひとりが発言できるようにしています。意見に入り過ぎず話し合いが進むように気を付けています。



色々な意見が出たりしても、あまり結論を急がず仲間同士でじっくり話し合う雰囲気大切にしています。
「自分と違った意見がある。」「自分の話を仲間が聞いてくれる、認めてくれる。」
その実感が自信につながっていきけるよう一緒に参加しています。
のぞみの家 職員



なのはなグループ(活動センターかなえ)なのはなグループは、男性6名 女性4名 総勢10名のグループです。
年齢は65才〜23才までと幅広く、活動している内容も、資源回収、チラシ・市報配布、さきおり、手芸などなど色々なものに挑戦しています。



開催日

見通しを持つために、「週1回、木曜日の午前中」と決めて行っています。

ひまわりの会

月1回のレクリエーション・隔月に行く調理の計画や、終わった後の感想・反省
年1回行われる旅行の計画や、クラブ活動についてなどなど。様々な事を話し合っています。

この自治会のなまえ『ひまわりの会』も、法人名「イリアンソス(ギリシャ語でひまわりの意味)」にちなんでみんなで決めました。

一人一人の意見を大切に

～隔月に行う調理の計画を決める時の様子～
進行は、職員が行います。まずは調理のメニュー決めます。

「今の季節は何かおいしいかなあ？」なんて話しながらみんなで思いついたメニューを発表します。言葉で伝えるのが苦手な人は、メニューの写真を指さします。いくつか候補があがったらメニューを写真で用意します。その写真をみながらイメージをふくらませ、そして多数決できめていきます。この時がみんな一番真剣です！



席に座って手を挙げる人もいれば、ホワイトボードの前に出て来て貼ってある写真を一つ一つじっくりみながら「これ！」と自分の意見を伝える人もいます。人によつては「ん」と決めるのに時間がかかる人もいますが、「はやく！」なんてせかす人は誰もいません。みんなも一緒に「ん」と悩んでいるかのようにじっくりと待っています。

こんな様子でひとつひとつ、メインメニュー・サイドメニュー・デザートと決めていきます。

メニューが決まったら、材料決め・担当決めです。

…といった具合に、話し合いを何回かにわけてじっくりと決めていきます。何回も話し合っただけで計画した調理なので、当日は、みんな見通しを持ってはりきって取り組ん

でいます。

決めることの大切さ

進行は職員ですが、主役はみんなです。

以前、レクリエーションの行き先について計画した時2回続けて同じ場所にいったことがあります。「1回目だけでは時間が少なく、楽しめなかったのもう1回行きたい。」という思いからでした。みんなの意見・思いが活動に反映されていく、自分達で決めていくということはとても大切なことだと思っています。

また、みんなの意見がしやすいように他のスタッフは雰囲気つくりをしたり、写真など利用しながらみんなにわかりやすい環境をつくるように「こころがけています。



活動センターかなえ 職員



がんばれ イリアンソス! シリーズ⑧

「豊かな地域生活をめざして…」

わかくさ学園職員 上野あつこ

わかくさ学園発達相談室と活動センターかなえは同じ建物の一階と二階にあります。発達相談室は平成13年に市立幼稚園が閉園した跡地を利用して始まりまし。わかくさ学園に入園できず待機する児童のための親子グループの活動や、市内の全ての乳幼児のための発達相談を担う機関として開室されました。相談室ができた頃は、年間50名ほどの利用者数でしたが、11年を経た現在はその4倍の利用者数となり、今年平成24年度から学齢期のお子さんの相談にも対応するようになりました。なので、今後もさらに相談室の利用が拡がることになると思います。

私は、4年前からこの発達相談室で仕事をしていますが、日々建物の老朽化とも戦っています。

天井からの水漏れ、外壁のひび、漏電等、故障の箇所をあげたらきりがありません。かなえさんは、この建物の二階ですから発達相談室以上に使い勝手も悪く、同じように老朽化も進んでいますのでいっそう苦労も多いと察します。さし迫っているのは、活動センターかなえの新施設建設です。一日も早い建て替えて、安全で安心な施設で活動してほしいと願っています。

さて、ここでは活動センターかなえと発達相談室は入口を共用しています。二階への階段を昇っていく利用者の方の中には、わかくさ学園を卒業された方もいてその方の小さい頃を知っている私は、時折懐かしく声をかけさせて頂いています。ご両親と離れてグループホームやケアホームで生活している方も、住み慣れた地域で生活を続けられることは素敵なことだと思います。東久留米市で生まれ育って、わかくさ学園や発達相談室で乳幼児期、学齢期、イリアンソスや市内の福祉施設で学童期、成人期のライフステージごとに切れ目のない支援を続けていけたら、どんなに障害があっても自分の希望する地域で豊かな地域生活ができるようになるのでは思っています。みんなのできるようには思っています。みんなの望んでいる施設や福祉サービスを創っていきましょう!



法人行事

くろてん

『リサイクル久留店』

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

◎日程：4月11日(木)25日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止 気温によって中止・開催時間短縮の場合もあります。

ご挨拶

2012年度の冬号も終わり、無事に年4回の広報誌を発行することができました。

忙しい中、原稿を書いて下さった皆様、本当にありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

2013年も読みやすい広報誌を目指して頑張っていきます。

本年もよろしく願います。

編集委員一同

ご寄付をいただきました。

(1月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想的の資金として大切に使用させていただきます。

- 藤田 祐子様
- 渡辺 美枝子様
- 剣持 明敏様
- 自由学園女子部卒業生会様
- 金野 博志様
- イトーヨーカドー労働組合滝山支部様

ありがとうございます。

表紙の写真

いつも笑顔がすてきなみんなですが、こんなにまじめな表情で仕事に取り組んでいる姿もすてきです。

(左) さきおり (右) 市報配り

編集後記

2012年で心に強く残っていることといえば『金環日食』です。みなさんはご覧になりましたか？

それまで良い天気だったのが一転暗くなり、空を見上げると日食がはじまっていた。今日は『金環日食』がおこるとわかってはいても、朝の光がだんだんと夕方のように暗くなっていく様は「ドキッ」とさせられました。事前の情報があった昔の人ならば「天変地異？」「神のいかり？」などさぞ驚いた事だろうと想像します。と同時に宇宙の神秘さ、自然への奥深さを感じます。

宇宙のように、自然のように、懐の大きい人間になりたいと思う今日この頃です。

池田 苗生子

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

池田苗生子・磯部光孝・金野博志・多田由美
田中沙樹・矢島正樹・吉田遊佑



定価 100円